



# みちくさ 放浪篇

No.17 平成30年6月19日

## 終わった人

「終わった人」という映画が始まっているが、とても気になる中身である。自分も終わってから2年目に突入していて、正確に言えば第2の職場にいるから、半分終わった人である。



退職すればこんなことをしてみたいと誰でもいろいろ考える。ところが、実際自分の場合は半分も達成できていない。何故なんだろうと考えてみる。お金と時間はある程度ある。あれ欲しいこれ買いたいと、退職金が出たばかりの頃は妄想するけれど、数年先の年金暮らしのことを考えると、今お金があるからといって、無計画でいいのかと自問自答しブレーキがかかる。新しいこと始めてみたいと思うけれど、これがまた意外にできない

のである。もちろん現在全く仕事をしていない訳では無いので、一日のうちの自由になる時間も限られてはいるのだが、新しいことが出来ない理由の一つは、自分に忍耐力が無くなってきているということが原因では無いかと思うのである。

退職して一年目、放送大学を申し込んだ。現職の時に勉強したいと思っていた統計学について、奮起して申し込んだ。入会金とコースの受講費合わせて1万5千円くらいかかっただろうか。毎週1回、45分の授業を衛星放送で見ながら、テキストとにらめっこして勉強するのである。最初のうちは物珍しさもあって、比較的続いていたが、仕事が忙しくなったため、録画して後で見ようかと思ったら、どうしても録画が溜まっていった。そして試験日が指定されていたが、あいにく仕事が休めない日で受験できないと分かったと、とたんにモチベーションが下がって、もういいかとなってしまった。残ったのは分厚いテキストのみ。ここで自己嫌悪に一通り陥るのである。

たぶん、現職の時であれば、万難を排してでも単位を取るために頑張っただろうなと思うのだけれど、特に単位が無くても全く生活には困らない今となっては、単なる気まぐれが成就しなかったと終わってしまう。

一事が万事で、いちいち記載はしないが、これ以外にも中途半端で止まっていることがいくつか存在している。

あと気にはなっていることの一つとして、フランスの叔母のところを訪ねることが実現できていないことである。そんなのすぐに行けばいいのと言われるが、海外旅行となると自分としては敷居が高い。飛行機に半日も乗っているということだけで、少々精神不安定になりそうで、これまた厳しい現実である。もちろんパスポートを取るところから始めないとい

けないのであるが、まだ仕事をしているということを言い訳にしていって、これもまだ実現できていない。

こういう風に、あれやりたい、これやりたいといろいろ考えても、何一つ上手くいっていない自分のような人間が終わった人の典型的なのかもしれない。そういう意味で映画を見に行くと共感しすぎて泣いてしまいそうで怖いのである。うちのかみさんは震災後に早めに退職しているが、彼女を見ていると全く自分が抱えているような問題はないのが不思議である。カルチャースクールやヨガに通ったり、友達と頻繁にあったりと一週間が充実しているようで全くうらやましい。女性と男性は違うのだろうか。同じくらい教員生活を送っていたのだが、この差は何なのだろう。

現職の時と同じに感じているのは、朝起きたとき、「今日は何曜日だっけ」と考えることである。金曜日だとうれしいし、月曜日だとうんざりするの、今も同じである。土曜日だと元気だし、日曜日の夕方だと寂しくなる。でもこれが全く仕事をしなくなったとき、どうなるのだろうか。今日なにしようかと考えるようになると、それはそれでまた大きな問題を抱えるようだなあと。いったいいつになったら自己認識できて楽になるのだろうか。